

今年も無事 独立展 額田さんの「エチオピアの人」

2022-10-20

野口幹夫

毎年10月に国立新美術館で開かれる独立展、今年は額田さんは残念ながら上京されないと聞いていましたので、ちょっと寂しい思いで、今日作品を拝見してきました。

今年もいつものところ、入口のすぐ右壁にあるのがわかりました。



200号の大作「エチオピアの人」です。

額田さんが愛してやまないエチオピアのさまざまな人たちと出会いました。

中央で杖を突いているのは、ここではただ一人の老人でしょう。でも腰は曲がらずしっかり

と歩いています。左側の二人のスッキリとした女性頭に荷物を持っています。

手前の数名はまだ子供たち、あとは何か働いている人々が描かれています。

200号の絵は大きいです。額田さんが筆をおいたであろう位置まで近寄って眺めてみました。

背景にあるのはガラクタ家屋です。何か懐かしい思いがします。このガラクタ家屋の向こうには高台があって城壁のようにも見えました。結構荒々しいタッチで描かれていて、でもそれがこの絵に美しさをもたらしています。



パブロ・ピカソは「芸術は日々の生活のほこりを、魂から洗い流してくれる。」とっています。私はしばらく彼の絵の前にたたずみ 魂の洗濯をしました。

今年も独立展は新人の作品がどっさり出ていました。それぞれエネルギッシュです。独立展のますますの発展を願いながら会場を出ました。